

科目名	検定対策Ⅰ		単位数	3	科目コード			
授業形態	演習		時間数	90	開設期	2025		
受講条件			開設時期	1 前	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験の合格を目的とする問題演習を行う。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・ 知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・ 計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・ 検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・ 合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・ 実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画 (全体)								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	杉林 信繁			実務経験紹介				

科目名	検定対策Ⅱ	単位数	3	科目コード						
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2025					
受講条件		開設時期	1 後	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。									
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする									
受講条件										
事前学習について (テキスト・参考書等)										
授業の到達目標										
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる										
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる										
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
授業計画(全体)										
この授業科目は目標とする検定資格(ＩＴパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格)ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。										
授業計画(授業単位)										
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録					
1～6	検定試験対策									
7～12	検定試験対策									
13～18	検定試験対策									
19～24	検定試験対策									
25～30	検定試験対策									
31～36	検定試験対策									
37～42	検定試験対策									
43～48	検定試験対策									
49～54	検定試験対策									
55～60	検定試験対策									
61～66	検定試験対策									
67～72	検定試験対策									
73～78	検定試験対策									
79～84	検定試験対策									
85～90	検定試験対策									
成績評価方法										
1 授業態度										
2 不可となった場合、再試験は実施しない										
3										
4										
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準		
定期試験							評価なし	秀、S(4):90点以上		
小テスト							評価なし	優、A(3):80点以上		
宿題授業外レポート							評価なし	良、B(2):70点以上		
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C(1):60点以上		
発表・作品							評価なし	不可、E(0):59点未満		
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F		
出席							欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員	杉林 信繁			実務経験紹介						

科目名	検定対策Ⅲ	単位数	3	科目コード						
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2025					
受講条件		開設時期	2 前	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。									
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする									
受講条件										
事前学習について (テキスト・参考書等)										
授業の到達目標										
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる										
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる										
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる										
授業計画(全体)										
この授業科目は目標とする検定資格(ITパスポート、セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格)ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。										
授業計画(授業単位)										
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録					
1～6	検定試験対策									
7～12	検定試験対策									
13～18	検定試験対策									
19～24	検定試験対策									
25～30	検定試験対策									
31～36	検定試験対策									
37～42	検定試験対策									
43～48	検定試験対策									
49～54	検定試験対策									
55～60	検定試験対策									
61～66	検定試験対策									
67～72	検定試験対策									
73～78	検定試験対策									
79～84	検定試験対策									
85～90	検定試験対策									
成績評価方法										
1 授業態度										
2 不可となった場合、再試験は実施しない										
3										
4										
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準		
定期試験							評価なし	秀、S(4):90点以上		
小テスト							評価なし	優、A(3):80点以上		
宿題授業外レポート							評価なし	良、B(2):70点以上		
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C(1):60点以上		
発表・作品							評価なし	不可、E(0):59点未満		
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F		
出席							欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員	杉林 伸繁			実務経験紹介						

科目名	検定対策Ⅳ	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2025			
受講条件		開設時期	2 後	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本情報技術者試験および応用情報技術者試験の合格を目的とする検定対策。受験科目は前回国試の結果による。							
授業の一般目標	1) それぞれが目標とする検定資格に合格をする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・知識系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 思考・判断の観点 ・計算系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
☑ 関心・意欲の観点 ・検定試験対策を進める上で、わからない箇所を教員やクラスメートに質問することができる								
☑ 態度の観点 ・合格を目指す検定資格の受験日を決定し、受験申し込みをすることができる								
☑ 技能・表現の観点 ・実技系検定試験の模擬試験において、合格点以上とることができる								
授業計画 (全体)								
この授業科目は目標とする検定資格（ITパスポート、セキュリティマネージメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、その他の資格）ごとにクラス分けを行い、それぞれ別の教室で資格対策の授業を行う。なお、学期途中で目標検定資格に合格した場合は、より上位資格を目指すクラスへと移籍することができる。 この授業科目では、自らが定めた検定資格合格を目標に、学習計画の立案、進捗状況確認、疑問点の改善を自発的に行いながら学習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	検定試験対策							
7～12	検定試験対策							
13～18	検定試験対策							
19～24	検定試験対策							
25～30	検定試験対策							
31～36	検定試験対策							
37～42	検定試験対策							
43～48	検定試験対策							
49～54	検定試験対策							
55～60	検定試験対策							
61～66	検定試験対策							
67～72	検定試験対策							
73～78	検定試験対策							
79～84	検定試験対策							
85～90	検定試験対策							
成績評価方法								
1 授業態度								
2 不可となった場合、再試験は実施しない								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		100	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	杉林 伸繁			実務経験紹介				

科目名	プロジェクトマネジメント		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		時間数	60	開設期	2025		
受講条件			開設時期	3 前	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	PMBOKを基にプロジェクトマネジメントの考え方を理解し、プロジェクトマネジメントで使用する標準的な用語を用いて、プロジェクト内でのコミュニケーションが取れるようにする。							
授業の一般目標	1) PMBOK第7版とそれ以前の版の違いを説明できる。 2) プロジェクトのメンバーとして、他のメンバーと協働することができる。 3) 成果に焦点を与えたマネジメントを実施できる。 4) プロジェクトの価値の最大化に取り組むことができる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：担当になったら知っておきたい「プロジェクトマネジメント」実践講座							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	・プロジェクトマネジメントの重要性と役割を説明できる。 ・PMBOKに基づく知識エリアとプロセス群を理解し、説明できる。							
☑ 思考・判断の観点	・プロジェクト内での報告・連絡・相談が適切に行える。							
☑ 関心・意欲の観点	・プロジェクト成功のための手法や実例に主体的な関心を持って学ぶことができる。							
☑ 態度の観点	・チーム内で協調し、責任を持って課題に取り組むことができる。							
☑ 技能・表現の観点	・プロジェクトに必要な成果物（WBS、スケジュール、リスク計画など）を作成できる。 ・小規模なプロジェクトの計画書を作成し、発表できる							
授業計画（全体）								
PMBOKに基づき、プロジェクトの計画、実行、監視、終結までを15回に分けて学習。WBS作成、リスク管理、チーム内連携など実践を通じて習得し、最終的に成果を発表する。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～4	プロジェクトマネジメントの基本							
5～8	PMBOK概要とプロジェクトマネジメントの枠組							
9～12	プロジェクト統合マネジメント							
13～16	スコープマネジメントとWBS作成							
17～20	スケジュールマネジメント（ガントチャート作成）							
21～24	コストマネジメントと見積もり手法							
25～28	品質・資源マネジメント							
29～32	コミュニケーションとステークホルダーマネジメント							
33～36	リスクマネジメント（リスク特定・分析）							
37～40	調達マネジメントと契約管理							
41～44	チームビルディングとコンフリクトマネジメント							
45～48	成果物レビュー・プレゼン準備							
49～52	成果物レビュー・プレゼン準備							
53～56	プレゼンテーション（グループ発表）							
57～60	プレゼンテーション（グループ発表）							
成績評価方法								
1 提出物（プロジェクト成果物）								
2 授業態度								
3 プレゼンテーション								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○			60	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○			○		40	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹介	・企業での情報システム部門、ITコンサルタント http://www.shonanwind.com/profile.html			

科目名	I Tゼミナール		単位数	9	科目コード			
授業形態	講義		時間数	270	開設期	2025		
受講条件			開設時期	3 前	教員実務経験対象	有		
授業概要 （目的・目標とする資格・検定等）	AI、IoT、ロボット制御などの先端技術を、各教員の専門に応じてゼミ形式で学び、実践的な演習を通じて理解を深める。技術の背景理解からアプリ開発までを目指す。							
授業の一般目標	1) 先端技術の原理・背景・現状を説明できる。 2) 学んだ技術を応用し、簡単なアプリやシステムを実装できる。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・ 先端技術（AI・IoT・ロボット等）の基本概念や仕組みを理解し、特徴や用途を説明できる。								
☑ 思考・判断の観点 ・ 課題に応じて適切な技術や手法を選択し、システム設計に反映できる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・ 新しい技術への興味を持ち、自発的に調査・実験・発表に取り組む姿勢を持てる。								
☑ 態度の観点 ・ ゼミ活動に主体的に参加し、他者と協力して学び合う姿勢を持続けられる。								
☑ 技能・表現の観点 ・ 先端技術を用いたアプリやシステムを実装し、成果をわかりやすく発表できる。								
授業計画（全体）								
複数教員によるゼミ形式で、AI・IoT・ロボット制御などの先端技術を分担して指導する。技術の背景理解、基本実装、応用演習を段階的に行い、最後に成果物の発表を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～18	【導入・共通講義】先端技術概論、AI・IoT・ロボットの概要と社会的意義							
19～36	【AI①】機械学習の基礎（教師あり・なし学習、分類と回帰）							
37～54	【AI②】画像認識入門（OpenCV+TensorFlow）							
55～72	【AI③】自然言語処理（チャットボット、文章分類）							
73～90	【IoT①】IoTの構成と基礎知識、センサーデバイスの種類と使用方法							
91～108	【IoT②】マイコン制御（Arduino/ESP32）+センサーデータ取得演習							
109～126	【IoT③】ネットワーク連携（MQTT/HTTP）+クラウドにデータ送信し可視化							
127～144	【ロボット①】ロボット制御の基礎（モーター制御・センサー入力）							
145～162	【ロボット②】ライントレース制御、フィードバック制御の基礎演習							
163～180	【ロボット③】複数センサーを用いた自律動作プログラミング							
181～198	【応用①】自由課題の選定とグループ分け、要件定義と設計							
199～216	【応用②】システム開発（中間レビュー）、実装フェーズ							
217～234	【応用③】システム開発の続き、完成に向けた調整と改善							
235～252	【成果発表準備】資料作成、発表練習、動作確認							
253～270	【最終発表会】プロジェクト発表・デモ+講評・振り返り							
成績評価方法								
1 提出物（成果物）								
2 授業態度								
3 成果発表・プレゼンテーション								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○	○		20	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○			○		80	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	柳川 小次郎			実務経験紹介				

科目名	課題設定・予備調査	単位数	3	科目コード				
授業形態	演習	時間数	90	開設期	2025			
受講条件		開設時期	3前	教員実務経験対象	有			
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	学生が自らの卒業制作プロジェクトの目的を明確化し、要素技術の調査や競合分析、市場調査を行う。 また、予備調査に基づいた実施スケジュールの策定も行う。							
授業の一般目標	1) 卒業制作で使用する先端技術を深堀して学ぶ。 2) 卒業制作で行いたい内容がすでにアプリとして一般に流通していないか調査する。 3) 卒業制作のターゲットとなる顧客の課題と要求を調査する。 4) 卒業制作の実施スケジュールをたてる。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・プロジェクト管理に必要なスケジュール作成やリソース配分に関する知識を習得し、効率的な計画立案ができる。								
☑ 思考・判断の観点 ・予備調査から得られた情報を基に、効果的かつ実行可能なプロジェクト計画を策定することができる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・フィードバックに対して建設的な姿勢で取り組み、改善を図ることができる。								
☑ 態度の観点 ・プロジェクトに対して高い責任を持ち、効率的かつ効果的に作業を進めることができる。								
☑ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
卒業制作に向けた課題設定と予備調査を実施する。各自が持っている初期構想を発表した後、4人以下のプロジェクトチームを編成する。その後はチームごとにグループワークを通じてゴール設定や技術調査、アイデアのブラッシュアップを行う。中間発表で得たフィードバックを活用してプロジェクト計画を策定する。学生は協働と自主研究で成長し、最終発表でそれぞれのプロジェクト概要を発表する。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～6	授業目的の確認、初期構想の発表							
7～36	チームごとに予備調査							
37～42	中間発表							
43～84	チームごとに予備調査							
85～90	最終発表							
成績評価方法								
1 プレゼンテーション								
2 授業態度								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度	○	○	○	○			40	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○	○				60	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	中村 誠			実務経験紹介	・企業での情報システム部門、ITコンサルタント http://www.shonanwind.com/profile.html			

[illegible]

科目名	パーソナルスキルⅤ	単位数	1	科目コード						
授業形態	演習	時間数	30	開設期	2025					
受講条件		開設時期	3 前	教員実務経験対象	有					
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人として他の模範となる個人的なスキルを身に付ける									
授業の一般目標	1) 学んだ内容を整理し、分かりやすいスライド資料としてまとめることができる。 2) 聴衆を意識して、論理的かつ明瞭な発表をすることができる。 3) 誤解のないビジネス文章を作成できる。									
受講条件										
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ITの仕事に就いたら「最低限」知っておきたい最新の常識									
授業の到達目標										
☑ 知識・理解の観点 ・社会人として必要なビジネスマナー、言葉遣い、報連相などの基本常識を体系的に理解し、実践することができる。										
☑ 思考・判断の観点 ・状況に応じた適切な対応や表現方法を選ぶことができる。										
☑ 関心・意欲の観点 ・自らの力不足を素直に認め、立派な社会人になるための努力をすることができる。										
☑ 態度の観点 ・常に謙虚な姿勢で学び、周囲と協調しながら誠実に行動できる。										
☑ 技能・表現の観点 ・誤解のないビジネス文章や分かりやすいスライド資料を作ることができる。										
授業計画（全体）										
テキストなどの教材に書かれている内容を学生が分担して輪番発表する。発表時間は一人3分程度。質疑応答最大10分。 発表資料を作成する際、どんな質問にも対応できるよう入念に準備を行う。教員、他の学生からダメだし・修正案件が生じた場合は直ちに修正を行う。										
授業計画（授業単位）										
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録					
1～2	輪読やり方、ジグソー法について									
3～4	輪番発表資料作成									
5～6	輪番発表資料作成									
7～8	輪番発表資料作成									
9～10	輪番発表資料作成									
11～12	輪番発表									
13～14	輪番発表									
15～16	輪番発表資料作成									
17～18	輪番発表資料作成									
19～20	輪番発表									
21～22	輪番発表									
23～24	輪番発表資料作成									
25～26	輪番発表資料作成									
27～28	輪番発表									
29～30	輪番発表									
成績評価方法										
1 提出物 2 授業態度 3 プレゼンテーション 4 質疑応答の適切さ										
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準		
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上		
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上		
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上		
授業態度			○	○			60	可、C（1）：60点以上		
発表・作品	○	○	○	○	○		40	不可、E（0）：59点未満		
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F		
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数		
担当教員	柳川 小次郎			実務経験紹介						

科目名	パーソナルスキルⅥ		単位数	1	科目コード			
授業形態	演習		時間数	30	開設期	2025		
受講条件			開設時期	3 後	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	社会人としてスタートするに必要な一般的な個人的なスキルを身に付ける。							
授業の一般目標	1) 学んだ内容を整理し、分かりやすいスライド資料としてまとめることができる。 2) 聴衆を意識して、論理的かつ明瞭な発表をすることができる。 3) 誤解のないビジネス文章を作成できる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ＩＴの仕事に就いたら「最低限」知っておきたい最新の常識							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 ・社会人として必要なビジネスマナー、言葉遣い、報連相などの基本常識を体系的に理解し、実践することができる。								
☑ 思考・判断の観点 ・状況に応じた適切な対応や表現方法を選ぶことができる。								
☑ 関心・意欲の観点 ・自らの力不足を素直に認め、立派な社会人になるための努力をすることができる。								
☑ 態度の観点 ・常に謙虚な姿勢で学び、周囲と協調しながら誠実に行動できる。								
☑ 技能・表現の観点 ・誤解のないビジネス文章や分かりやすいスライド資料を作ることができる。								
授業計画（全体）								
テキストなどの教材に書かれている内容を学生が分担して輪番発表する。発表時間は一人3分程度。質疑応答最大10分。 発表資料を作成する際、どんな質問にも対応できるよう入念に準備を行う。教員、他の学生からダメだし・修正案件が生じた場合は直ちに修正を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～2	輪番発表資料作成							
3～4	輪番発表資料作成							
5～6	輪番発表							
7～8	輪番発表							
9～10	輪番発表資料作成							
11～12	輪番発表資料作成							
13～14	輪番発表							
15～16	輪番発表							
17～18	輪番発表資料作成							
19～20	輪番発表資料作成							
21～22	輪番発表							
23～24	輪番発表							
25～26	輪番発表資料作成							
27～28	輪番発表							
29～30	輪番発表							
成績評価方法								
1 提出物								
2 授業態度								
3 プレゼンテーション								
4 質疑応答の適切さ								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			○	○			60	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	○	○	○	○		40	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	柳川 小次郎			実務経験紹介				